



ITUジャーナル9月号掲載のITU-T TSAG/SG議長・副議長へのインタビューに続いて、今号では2022年6月のWTDC-22で選出されたITU-DのSG副議長に、役職への抱負などを伺いました。



SG1 副議長（新任）

株式会社NTTドコモ
おおつき めみこ
大槻 芽美子

〈プロフィール〉

専門領域：通信規制・政策関連

- 2007年 オーストラリア国立大学クロフォード経済政治研究大学院修了
- 2008年 株式会社NTTドコモ再入社、ITU-T SG3に参画
- 2012年 DOCOMO USA, Inc. ワシントンDCオフィスマネージャー
米国代表団メンバーとしてWCIT-12に参加
- 2016年 WTSA-16にてドラフティング議長（決議84）を務める
ITU-T SG3課題12アソシエイトラポータ就任
- 2018年 総務省国際政策課へ出向、理事会・理事会作業部会等に参画
APT WTDC-22 WG議長を務める
- 2021年 ITU GSR-21にてセッションモデレータを務める
- 2021年 株式会社NTTドコモに復帰、ITU-T SG3課題12ラポータ就任
- 2022年 ITU-D SG1副議長、課題4副ラポータ就任（現在に至る）
PP-22にてアドホックグループ議長（決議208他）を務める

—— 先のWTDC-22での選出そしてご就任おめでとうございます。今回、副議長に任命されたことについて率直なお気持ちをお聞かせください。

大槻 ありがとうございます。とても存在感の大きかった川角様の後任ということでプレッシャーを感じておりますが、いよいよマネジメントチームの一員として仕事ができることにわくわくしています。

—— ご担当事項（ご専門領域）とご経歴、ITU（SG）との関わり（年数など）、その他の標準化機関での活動など

を教えてください。

大槻 ITUの活動は2008年から開始し、これまでT、Dセクターや理事会など様々な会合に参加してきましたが、専門は一貫して通信をとりまく規制・政策関連事項です。ITU-T SG3ではモバイル金融サービスに関する政策事項、ITU-D SG1では電気通信/ICTの経済的側面に関する研究を主に担当しています。

—— 今研究会期におけるご担当の研究委員会の最重要テーマ・課題はどのようなこととお考えでしょうか。

大槻 ITU-D SG1の任務である「コネクティビティを実現するための環境整備」は、世界中の人々をつなぐというITUの目標と密接に関連しています。特に途上国が最適な通信規制・政策を導入できるようにするためのツールを作成し、提供することが重要だと考えています。

—— 副議長としての抱負をお聞かせください。どのようなところに重点を置いて活動されるご予定でしょうか。

大槻 ITU-Dではそれぞれの副議長に役割が割り当てられており、私はITU-DのSG2や他のセクターとのリエゾンを担当しています。ITU-Tでの経験も生かし、他のSGやセクターとの連携にも貢献していきたいと思います。

—— 副議長としての難しさや障壁はどのようなものか想定されるでしょうか。また、そうしたことへの対処方法はどうお考えでしょうか。

大槻 ITUは“Contribution Driven”なので、寄書などメンバーからのインプットが少ないと作業が進みません。コミュニケーションを密にし、多くのメンバーに積極的に参加してもらえよう働きかけていこうと考えています。

—— ポストコロナのSGの活動はどうなっていくと思われますか。また、どのようにしたいとお考えでしょうか。

大槻 物理参加とリモート参加のハイブリッド会合が定着してきたので、これまで物理参加が難しかった途上国など

からも多くのメンバーに参加いただき、議論をさらに活発化させていきたいです。

—— 我が国、各加盟国の政府関係やICT産業界からの理解や協力についての期待をお聞かせください。

大槻 ITU-Dは政府機関だけでなく、民間企業の経験やアカデミアによる研究の成果なども共有できるプラットフォームとなっていますので、今後も様々なステークホルダーの参画を推進していただければと思います。

—— 最後に、個人の信条や、プライベートな時間でのご趣味などをお聞かせください。

大槻 健康第一で良いパフォーマンスができるよう心掛け

ています。普段から身体を動かしたり、好きなものを食べたりしてストレスを溜めないようにすることで、会合中などに休みなしで徹夜の仕事になっても元気に乗り越えられるようにしています。

—— 読者へのメッセージをお願いいたします。

大槻 このような記事がきっかけで、ITU-Dの活動に興味を持っていただけたら嬉しいです。

【読者のための豆知識】

SG1（第1研究委員会）の活動内容：有意義なコネクティビティのための環境整備



■ 第1回会合の様子



■ SG1マネジメントチーム

出典：<https://www.flickr.com/photos/itupictures/albums>



SG2 副議長（新任）

国立研究開発法人情報通信研究機構

いまなか ひで お
今中 秀郎

〈プロフィール〉

専門領域：ネットワークアーキテクチャの研究、標準化

- 1987年 三重大学大学院工学研究科電子工学専攻修了
- 1987年 日本電信電話株式会社入社
- 2003年 ITU-T SG13に参画、NGN及びIPTV標準化実施
- 2006年 ITU-T SG13 Q1（NGN計画と協調）ラポータ就任
- 2010年 ITU-D SG2に参画
- 2013年 ASTAP IoT-WG議長就任
- 2014年 ITU-D SG2 Q5（災害対応）の副ラポータ就任
- 2015年 ITU-T FG-NET2020副議長就任
- 2016年 ITU-T SG16 Q8（イマーシブライブ体験）ラポータ就任
- 2022年 ITU-T SG16 WP3（AV符号化とイマーシブサービス）議長就任
- 2022年 ITU-T FG-Metaverse副議長就任
- 2022年 ITU-D SG2副議長就任
- 2022年 情報通信研究機構（NICT）入所（現在に至る）

—— 先のWTDC-22での選出そしてご就任おめでとうございます。今回、副議長に任命されたことについて率直なお気持ちをお聞かせください。

今中 ありがとうございます。ITU-Dには2010年から参加していますが、ITU-Tに比べて途上国の方がたくさん参加されていますので、様々な国の方々から注目していただけることに緊張しております。ITU-DのSG2副議長になったことで、今までのITU-TやITU-Rの経験を活かしてITU内外の情報連携をより活性化したいと考えております。

—— ご担当事項（ご専門領域）とご経歴、ITU（SG）との関わり（年数など）、その他の標準化機関での活動などを教えてください。

今中 ITUの標準化活動は、2003年にSG13でNGN（次世代通信網）の標準化から始まり、その後フォーカスグループ（FG）でFG-IPTV、FG-IMT2020（5G）や災害対応のFG-DR&NRR、SG16でイマーシブライブ体験、SG11でIoT機

器の試験方法、SG11、13、17でQKDN関連、ASTAPでスマートシティ、ITU-R WP5Aで無線LAN周波数、ITU-Dで災害対応関連技術の国際普及など、広範囲に活動してきました。役職としては、ITU-TでQ1/13ラポータ、FG-IMT2020副議長、Q8/16ラポータ、WP3/16議長、ITU-DでQ5/2副ラポータ、ASTAPでIoT-WG議長などを務めました。

また、TSAG（通信標準化諮問委員会）、WTSA（世界電気通信標準化総会）、WTDC（世界電気通信開発会議）、WRC（世界無線通信会議）、PP（全権委員会議）に参加経験があり、ITU全体及び3セクタの研究方針の議論にも寄与しております。

—— 今研究会期におけるご担当の研究委員会の最重要テーマ・課題はどのようなこととお考えでしょうか。

今中 今研究会期からSG2の大きなテーマがデジタルトランスフォーメーションになりました。これに伴い、Q2/2ではいままでのe-Healthに加え、教育や金融を含むe-Serviceを扱い、Q5/2ではデジタルディバイド解消のためのデジタルスキル育成を扱うことが大きな変化となります。SG2としては、今まで以上にITU-T、特にSG16との関連がより一層必要になると考えております。

—— 副議長としての抱負をお聞かせください。どのようなところに力点を置いて活動されるご予定でしょうか。

今中 私はITU-T SG16でWP3議長を務めており、また、ITU-Tの他SGやITU-Rでの活動経験もありますので、ITU-DのSG2とITU内組織との連携を強化するよう努めたいと思っています。具体的には、ITU-TとITU-Dでe-Serviceに関する合同ワークショップの開催や、リエゾン文書の定常的なやり取りなどを働きかけたいと考えております。これにより、ITU-TやITU-Rの標準などを、ITU-Dを通じて途上国への円滑な展開を目指します。

—— 副議長としての難しさや障壁はどのようなものが想定されるでしょうか。また、そうしたことへの対処方法はどうお考えでしょうか。

今中 SG2議長や多くの副議長が1期目ですので、議事進行や成果物の承認などSGの円滑な運営に心配があります。私自身も副議長は1期目ですが、ITUでの長い標準化活動経験から会議運営をサポートしたいと考えています。

副議長というよりITU-Dとしては、途上国からの参加は増えていますが先進国からの参加者数が増加しておらず、特に日本企業の参加が少ないことを懸念しております。日本としてITU-Dの活動をさらに盛り上げていくよう、各社のご協力をお願いします。

—— ポストコロナのSGの活動はどうなっていくと思われ

ますか。また、どのようにしたいとお考えでしょうか。

今中 2022年12月にWTDC22後の第1回のSG2会合がジュネーブで開催されました。現地に途上国やYouthを含む100名程度が参加されており、徐々に以前のような対面会議に戻りつつあります。COVID-19パンデミックにより完全電子会議になったことで、途上国の方を含め、参加が容易な電子会議の良さにも気が付いてきています。今後は対面会議と電子会議の併用が増えると考えております。また、メタバースを使った仮想空間上での対面会議などができると、電子会議と対面会議の両方の良さが活かされる部分があると思いますので、今会期は無理でも次会期のいくつかの会議がメタバース上で実施できないかと妄想しております。

—— 我が国、各加盟国の政府関係やICT産業界からの理解や協力についての期待をお聞かせください。

今中 まず、日本は超高齢社会が世界に先駆けて進んでおり、また、災害の多い先進国でもありますので、日本の高齢者向けICTサービス、デジタルディバイドの解消策、ハザード検知や緊急時に役立つICTサービスなど、途上国にとって有益な技術やソリューションを有していると思います。途上国はICTインフラが脆弱な場合が多いですが、既存インフラを意識せず最新技術が最初に入る可能性もあり得ます。日本政府には、ITU-Dを通じた途上国への日本企業のソリューションや技術を国際展開するための基盤を整備していただき、各社にITU-Dへの更なる参画を働きかけていただきたいと思います。

NICTやアカデミアを含めたICT産業界としては、日本を含む先進国の先端技術を途上国でも必要としていることを認識し、途上国での実証実験やソリューション展開などWin-Winとなる関係を構築する場としてITU-D活動を捉え、積極的な参画を期待しております。

また、NTTの尾上さんがITU-T局長に選出されましたので、ITU-TとITU-Dの連携を日本がリードして強化し、ITU-Tの活動成果を途上国に展開するなどを含めたITU全体としての取組みを政府やICT産業界に期待しております。

—— 最後に、個人の信条や、プライベートな時間でのご趣味などをお聞かせください。

今中 信条という大げさなものではないですが、悩んだ時や迷った時に思い出す言葉は「初志貫徹」です。標準化活動はビジネスの一環という考えを持っておりますので、これを初志と考え、ITU活動を通じて日本企業のソリューションを国際展開する足掛かりとしてITU-Dを活用することが一

般的になるよう、総務省や日本ITU協会のご協力を得ながら国内外に働きかけたいと思います。

プライベートの面では読書とか旅行が好きですので、ドライブ、鉄道旅、飛行機旅をいろいろ計画しています。新型コロナウイルスによる行動制限もあり、この2、3年はほとんど計画だけで終わっています。早くコロナ前の状態に近いところまで戻ることを願っております。

—— 読者へのメッセージをお願いいたします。

今中 ITU-Dには途上国から政府や規制機関の代表者が参加されております。その国では相当なポジションの方だと思いますので、ITU-Dに参加されると、それらの方とも気軽に話ができる機会が作れます。民間企業の方で国際展開（特に途上国）をお考えになっている方は、ITU-Dを是非有効にご活用ください。

ITUやAPTには、独自の途上国支援プロジェクトがあります。相手先の国と合意ができれば、このプロジェクトを活用した国際展開の可能性もありますので、実証実験やトレーニングなど研究開発段階からソリューションのアフターフォローまで様々なフェーズで使えると思います。

—— その他、ご要望などがございましたらお願いします。

今中 日本ITU協会にはITUを含む標準化活動の活性化のため、政府と民間との橋渡しやITUと日本との橋渡しなど、様々な面での情報発信を期待しております。また、若手の標準化への参画促進や、産官学の標準化の取組みなど、標準化活動の情報ハブとして機能していただくと国際標準化での日本のプレゼンス向上につながると思います。



出典：https://www.flickr.com/photos/itupictures/albums

【読者のための豆知識】

SG2（第2研究委員会）の活動内容：デジタルトランスフォーメーション